

議員定数に関する意見交換会報告書

開催日時	令和3年6月25日（金）午後7時～9時
開催場所	議員協議会室（舞鶴市役所本館4階）
参加者	下記の団体から推薦いただいた8人 舞鶴自治連・区長連協議会、舞鶴商工会議所青年部、 特定非営利活動法人まいづるネットワークの会、舞鶴商工会議所
出席議員	議長 山本治兵衛 副議長 今西克己 新政クラブ議員団 田畑篤子、野瀬貴則、真下隆史 創政クラブ議員団 尾関善之、川口孝文、谷川眞司 公明党議員団 上羽和幸、小谷繁雄 日本共産党議員団 石束悦子、小杉悦子 市民クラブ舞鶴議員団 田村優樹、西村正之

【次第】

- 1 開会挨拶（議長） 進行：副議長
- 2 舞鶴市議会の状況及び取組等の説明（議長）
- 3 各会派の考えの説明（各会派代表者）
- 4 参加者の御意見等の発言（参加者全員）
- 5 質疑応答等による意見交換
- 6 閉会挨拶（議長）

【各会派の考え（理由等は別紙参照）】

会 派 名	議員定数に関する考え
新政クラブ議員団	2人削減（24人が適正）
創政クラブ議員団	現状維持（26人が適正）
公明党議員団	現状維持（26人が適正）
日本共産党議員団	現状維持（26人が適正）
市民クラブ舞鶴議員団	2人削減（24人が適正）

【参加者からの御意見】

≪削減すべきでないとの意見≫

- ・ 定数を削減すれば、議会のチェック機能が形骸化する恐れがあると思われる。一般的に少数派の意見が通らなくなるのではないか。現在はコロナ禍における経済の活性化、市民生活の向上に努めるべきであることから今回は定数を維持し、一区切りついたその後に人口に合わせ、臨機応変に考えるべきである。
- ・ 定数維持のまま、人口減少の防止を考えることが必要である。
- ・ 定数を減らすことは簡単だが、人が動くことで社会も動くことから、定数維持の方向でよい。
- ・ 人口減ありきで話が進んでいるが、人員整理は最終手段。目先の削減をするべきではない。人口増を考えるのが我々の代表である議員ではないか。

《削減すべきとの意見》

- ・ 身近な情報を発信することが議会の見える化になる。議員は情報発信力と足で稼ぎ様々な意見の聴取に努めるべき。人口減少による市財政の税収減と造船業の後退による経済状況から定数減の方向で考えるのが妥当。
- ・ 何人の減とは言えないが、人口の減少に比例して整理していくべきである。議員の必要性は感じるものの、環境の変化に合わせた定数減は致し方ない。
- ・ 人口が必ず減少するのが分かっているのなら定数減すべきである。市民感覚として、様々な場所で市予算の削減を感じる。税収減であるならば議員を減らすべきである。
- ・ 定数減は致し方ない。人口減になれば定数減はなんら問題のないことである。

【意見交換の概要】 ※意見交換における回答は、議会の総意ではなく、回答した議員個人の意見です。

Q. 会派内の全員が全てのことについて同じ意見であるとは思えないが、意見が分かれた場合は、どのようにまとめられているのか。(参加者から議員への質問)

A 1. 議員定数のことについても意見は分かれたが、何度も話し合いを重ねている。自分の思いだけを言うことは簡単だが、他の議員の意見を共有して、どれだけ共感できるかということが大事で、話し合いを重ねた結果、現在は中間報告ではあるが、現時点での結論を出した。(眞下隆史議員の回答)

A 2. 他の議員を納得させられるか、他の議員の意見に自分が納得できるかということになるが、議論を尽くすからこそ、自分が思っていなかった観点からの意見に触れ、自分の考えを改めることもよくある。納得できるまで意見を出し尽くすことが大事だと考えている。(野瀬貴則議員の回答)

Q. 舞鶴市の国防等の重要性は理解できるが、それと定数との関係、また、常任委員会と定数との関わりが分からなかったのを教えていただきたい。(参加者から創政クラブ議員団への質問)

A. 常任委員会と定数の関わりでは、まず、1つの常任委員会を何人で構成するかということ、それは有識者等の見解も踏まえて、7人か8人が適正であると考えている。次に、常任委員会の数は、いくつ必要かということ、それは、国防、海の安全、リダンダンシー等の重要な案件も多々あることから、現状の4委員会で分担するのが適当であると考えている。これらの考えをもとに、1委員会当たりの人数と委員会の数を掛けた数が、適正な議員定数であるという考えである。(川口孝文議員の回答)

Q. 議員活動とは、何をされているのか。(参加者から議員への質問)

A. 定義があるわけではないが、議会の会議などに出席するほかに、議員個人として、地域の中で声を聴くこと、地域の行事に参加することなど、議員活動の調査結果にも詳細に記載しているので参考にさせていただきたい。(上羽和幸議員の回答)

Q. 1年ごとの議員個々の活動の業績評価をする場はあるのか。(参加者から議員への質問)

A. 明確に書面で残すような評価は正直なところない。議会としては、会議への出欠状況などを記載した白書を取りまとめたりしており、今後も見える化を図っていきたい。現状は、議員活動としていろいろな方とお話をする中で評価の御意見をいただくことはあるものの、舞鶴市全体として見ていただいた上での個々の議員の評価はできておらず、その方法もなかなか難しいと考えているところである。今後の課題と認識している。(田畑篤子議員の回答)

≪その他の議員定数に関連する御意見≫

- ・ 働きに応じた報酬を得るべきであり、議員が無償ボランティアでは十分な仕事ができないと思う。
- ・ 議員にとって大切なのは、舞鶴市のチェック機能である。地域の代表として市民の声を「聴く場」を設け課題解決に努めていただきたい。
- ・ 「議会の見える化」を図っておられるのが非常によいことだと思っており、今後を楽しみにしている。
- ・ 議員一人一人の質を上げてもらいたい。
- ・ 定数減によって、地域の声が届かなくなることが考えられるので、議員の質を上げることによって対応していただきたい。
- ・ 人と人との信頼を築いていただくことが大切である。

【今後の予定】

市民の皆様からの御意見も踏まえて、議員間で議論を重ね、令和3年11月に、議会としての考え(結論)を取りまとめる予定。